

資料 「夏休みの宿題」

1学期が終わり、待ちに待った夏休み。

5年2組の太郎くんの夏休みは、家族との旅行やクラスのみなどで参加する臨海学校、とつても楽しいイベントばかり。しかし、たくさんの夏休みの宿題も、先生からもれなく渡されました。

予定どおり真っ黒に日焼けした太郎くん。宿題も予定通りに進めていくはずでした。

そんな楽しい夏休みも、残すところあと一週間。気が付けば、思ったより進んでいなかった宿題の算数のドリルを手に、

「今日で宿題もおしまいにするぞ!。」

と近所の図書館に向かいました。

図書館では、大学生のお兄さんや難しそうな顔をして熱心に本を読むおじさんなど、とっても静かで、ここなら集中して宿題できるぞと思いい、あいている机に向かいました。

しばらく集中して机に向かっていたおかげで、算数ドリルの終わりが見えてきました。

「いい感じだぞ。よし。ちよつと休もうかな。」

と席を立つと、少し離れた机に同じクラスの明くんがいました。そつと近づくと、明くんも算数ドリルをがんばっていました。

「僕の方が、ちよつと進んでいるかも。」

そつ思いながら、明くんに静かに声をかけました。

「なかなか楽しい夏休みだっただね。」

二人とも休けいをしながら、お互いの夏休みの楽しかった思い出を話していました。すると明くんが、

「そつだ、太郎くん。うちで一緒に算数ドリルをやらない?。」

「いいね。自信がないところもあるし、一緒にやろうか。」

というわけで、二人は図書館を出て、明くんの家に向かいました。

明くんの部屋で、残りの算数ドリルを始めた太郎くんと明くん。そのうち、明くんが、

「音楽でも聴きながら、宿題しようか?。」

と言いました。

「静かな図書館もいいけど、好きな音楽を聴きながら宿題もいいね。でも、音は小さめにしようね。」

「もちろん。宿題が第一だね。」

二人が大好きアーティストのCDをプレーヤーにセットして、宿題を続けました。

「やっぱり、このグループの曲はいいね。宿題が進むよ。」

「そうだね。すごくいいよね。太郎くんは、このCD持ってる？」

「うん…、欲しいけどまだ買ってないんだ。」

「じゃ、お父さんがコンピュータを持っているから、それで作ってもらっておくよ。」

「えっ！ そんなことできるの。本当に？」

「車の中でも聞きたいからって、お父さんがよくやってるよ。コンピュータを使えば、すぐにできるんだ。」

「じゃ、お願いするよ！ うれしいなあ。」

「今度会うときには、きつと持って行けるとおもっよ。待っててね。」

「ありがとう。」

大好きなアーティストの曲に、自然とやる気が高まって、太郎くと明くんの算数ドリルは、この日のうちに終わりをむかえました。

そして、九月一日。二学期の始業式。約束通り、明くんから太郎くんにCDが手渡されました。宿題は、もちろんすべておしまい。しっかりと先生との約束通り、提出することができました。